

No.8-6

【エッセイ】

人には体温というものがある。そして言葉にも温度というものがあると思う。温かかったり、冷たかったり。それは人によって感じ方は違う。でも温かい言葉を言われて嬉しくない人はいないのではないか。温かい言葉は沢山の人を笑顔にするのだ。そう思うきっかけになったのは障害者施設での実習体験だった。

高校二年の春、私は障害者施設に実習に行った。その施設は沢山の方々が住んでいた。私にとって沢山の方々と関わるというのはとても難しかった。一人一人違うコミュニケーション方法があり、初めはなかなか上手いかず、きっと利用者さんも私には心を開くことが出来なかったと思う。しかし日を重ねるごとに利用者さんへの関わり方が分かっていった。この人は歌が好きだ。だから一緒に歌を歌おう。この人は時間が気になって気になってしょうがない。だから絵でいま何をやる時間なのか分かりやすく教えてあげよう。その方を知ることによってコミュニケーション方法が分かり、それを活用していくことで声を掛けて下さる人が増えていった。その人の好きなこと、苦手なことなど、その方について知るといふことの大切さを学んだ。

そんな中、一つ気づいたことがある。利用者さんはよく、「ありがとう」と言って下さる。普通に暮らしていてもこんなに「ありがとう」と言われたことはない。ドライヤーで髪を乾かしたら「ありがとう」何かを拾ったら「ありがとう」この施設では沢山の「ありがとう」を聞くことが出来た。「ありがとう」と言っても利用者さんそれぞれの形で、そのまま言葉で言ってくださる方もいれば、手を合わせてお辞儀をして下さる方もいる。その方の最大限の「ありがとう」を言ってくださる。働いている職員さんにこの仕事のやりがいは何ですかと問うと、利用者さんに「ありがとう」と言ってもらえること、と言う人が多い理由が分かった気がした。

「ありがとう」この言葉は温かい言葉だ。人の心を温かくする。この言葉を言われる喜びを今回の実習で感じる事が出来た。「ありがとう」と言われるということは、私の行動が誰かの心を温かくできたのではないかと思う。そして私も「ありがとう」と言われ心を温かくするのだ。この言葉のやり取りが沢山みられればこの世界は温かい心で満たされると思う。たった一言で人の心を温かくすることが出来るこの魔法の言葉のように私も誰かの心を温かくしたい。私はそんな人になれるように誰かに温かい言葉をかけ、温かい行動をして沢山の人を笑顔にしたい。